

テーマ

古文書から生の声を聞く

適用分野

文化財保存、地域史研究、歴史を使った村おこし・町おこし



研究名称

古文書の整理・調査方法の研究

氏名所属

東谷 智 教授
文学部 歴史文化学科

内容

●特徴

古文書の読解を通し、近代以前の日本社会の姿を読み解く。

東灘区周辺に眠る地域史料の収集・整理・保存事業への協力を通し、地域史研究の充実を図る。

●研究内容

江戸時代の庶民は、武士である領主によって一方的に支配・搾取されてきたかのように捉えられがちであるが、当時の史料を調査すると、地域の行政を担う、地域の人々の生き生きとした姿が浮かび上がってくる。むしろ、領主が積極的に民意を募り、汲み上げることで、地域の問題を改善していこうとする社会であった様子が読み取れる。

当時の一般庶民は、ほとんどの者が高度な文章の読み書きができ、地域の行政運営に携わり、自分たちの要望を領主に具申するために大量の文書を作成し、現在にいたるまで自らの手で保存・管理してきた。明治維新以降、日本は中央集権的な国家として歩んできたが、こうした史料から浮かび上がる江戸

時代の庶民は、地方行政にたいする極めて高い意識を備えていたのである。

日本各地の民家や公民館に眠るこれらの古文書を読み解き、地域の先人たちの声に耳を傾けることは、来たるべき地方分権社会への道標ともなるであろう。同時に、こうした貴重な古文書の調査・整理・保存への取り組みも行っている。特に、岡本村（現在の東灘区の一部）で書かれた古文書研究を中心に、甲南大学周辺の地域住民との情報交換をしつつ、まちの歴史の掘り起こしを図りたい。



写真 古文書類

キーワード

日本史、近世史、支配、領主、行政、藩政史、史料の整理・調査論、江戸時代、古文書

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究